



# 学力UP便り



## 全国学力・学習状況調査の結果から

全国の小6・中3を対象に毎年実施され、本校の6年生も4月に取り組んだ「全国学力・学習状況調査」。このほど、全国平均など、結果の詳細が文部科学省から公表されました。学力UP便り第5号では、公表された結果を受けて、学力における「帯小の子どもたちの姿の一端」について紹介させていただきます。子どもたちが、今後も効果的に学習を進めていくことができるような、何らかのヒントになればと思います。

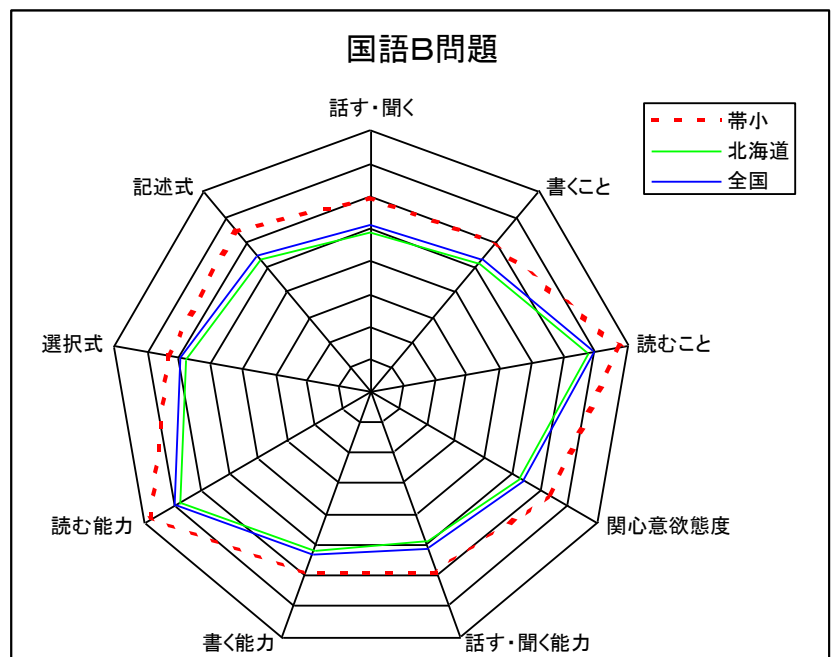
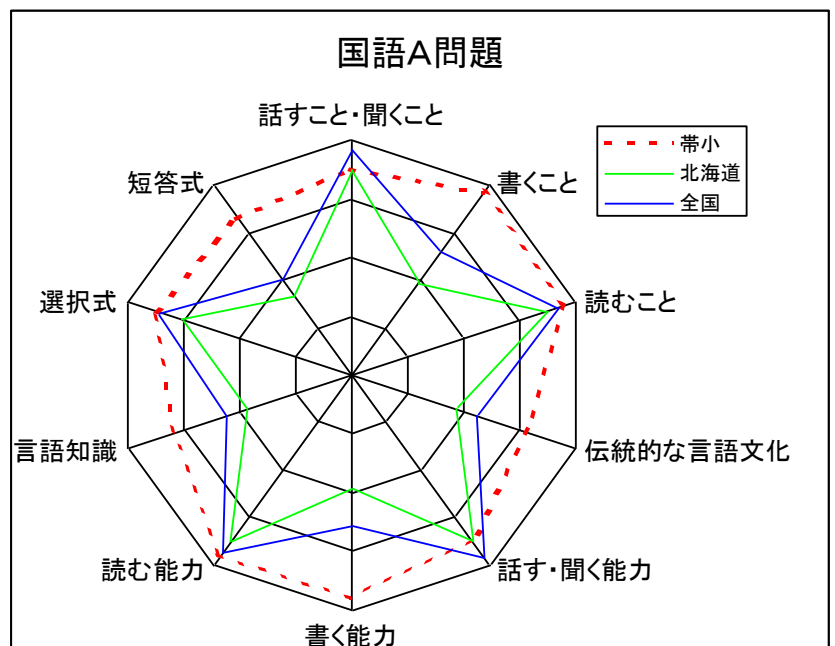
### 【国語】

基礎・基本の力を問うA問題、活用力を問うB問題ともに、総合的には全国平均を上回る結果となりました。

A, B双方の結果から、今年度の全国学力・学習状況調査に参加した本校の児童は、すべての領域で満遍なく得点できていることが分かります。A問題のグラフを見ると、全国、全道の結果が「星型」になっているのに対し、本校のグラフは比較的整った十角形になっていることから、そのことが伺えます。

一方、A問題の「話すこと・聞くこと」分野が、領域別（～こと、で示される学習の範囲）で唯一、全国平均を下回りました。～この問題は、話し合いの内容が文字で示され、その話し合いがどのようになされているかを選択肢から選ぶ問題でした。正解は、「希望に合うものを選ぶとしている。」間違いの多かった選択肢は「違う点を見つけながら話し合っている。」というものでした。～

しかし、同じ領域のB問題では全国平均を上回っており、また、この領域の得点基準となった問題は1問だけであったため、「話すこと・聞くこと」の力が弱いと、直ちに判断する必要はないものと捉えています。



(裏に続きます)

【算数】

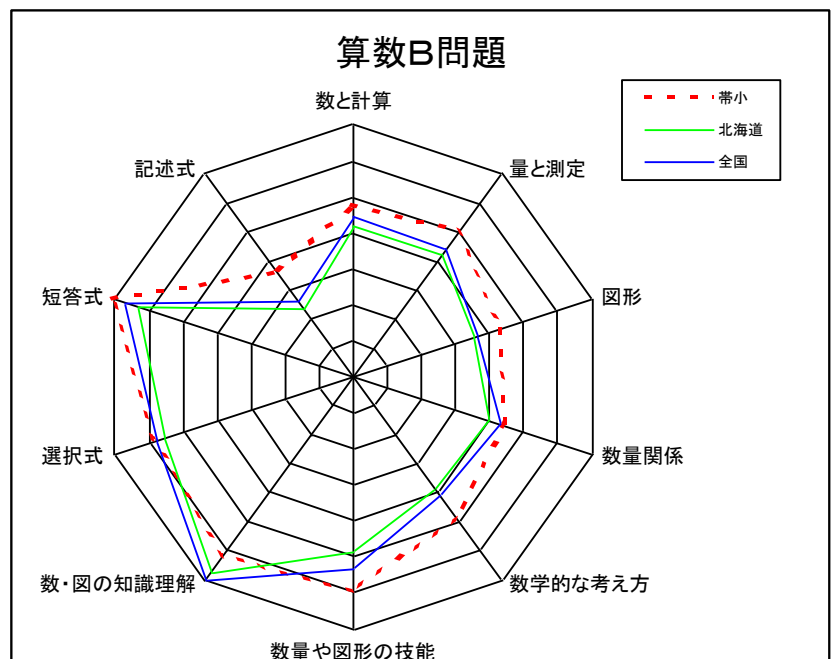
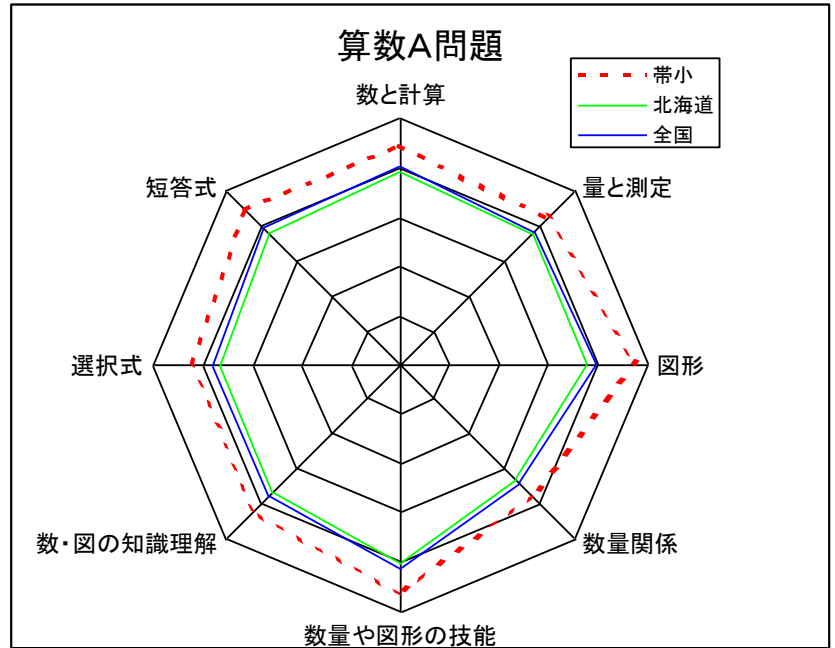
算数も国語と同様、基礎・基本の力を問うA問題、活用力を問うB問題ともに、総合的に全国平均を上回る結果となりました。

グラフの形から、いくつかの傾向を読み取ることができます。A問題は、全国平均をそのまま大きくしたような、正八角形に近い形になっている一方、B問題のグラフは、ややいびつな形になっています。（全国の傾向と同じように）記述式（文章を書くことによって答えを述べる）問題の正答率が低く、評価の観点としての分類項目である「数量や図形についての知識・理解」の項目では、算数のすべての領域で唯一、全国を下回る結果となりました。

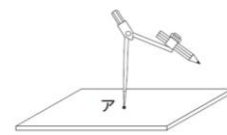
この領域の得点基準となった問題は2問あり、いずれも日常生活の事象の数学的な解釈と根拠の説明についての問題でした。具体的には、「その式が何を計算しているのか～計算の意味」について選択肢から選ぶ問題、もう1問は、1辺が9cmの正方形にできるだけ大きな円を描くとき、コンパスをどのようにセットすればよいかを選択する問題でした。（右下の問題を参照。）

これらの問題から、四則計算それぞれの意味（かけ算であれば、1つ分×いくつ分＝全部、など）や、学習した図形の性質（今回の問題では円の半径）について、的確に活用できるようにする力を高めていく必要があることがわかりました。

これらのことから、くり返しの練習を通して、これまで学習してきた内容を定期的に振り返り、いつでも活用できるような「基礎力」を一層定着させていく必要があることや、何が課題なのかを明確にして問題に取り組もうとする姿勢、さらに、例えば単に公式を用いて機械的に答えを出すのではなく、「なぜそうなるのか」ということにこだわって答えを求める練習などが、今後も必要であることが明らかになりました。

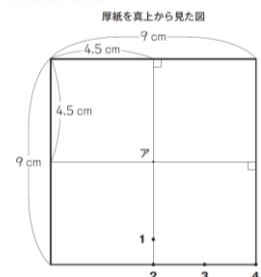


(3) 1辺が9cmの正方形になるように切り取った厚紙に、コンパスを使って、できるだけ大きな円をかくて切り取ります。



次の厚紙を真上から見た図の、アの場所にコンパスの針をさす場合、下の1から4のどこにえんぴつの先があうようにして、コンパスを開けばよいですか。

コンパスのえんぴつの先をあわせる場所（●）を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



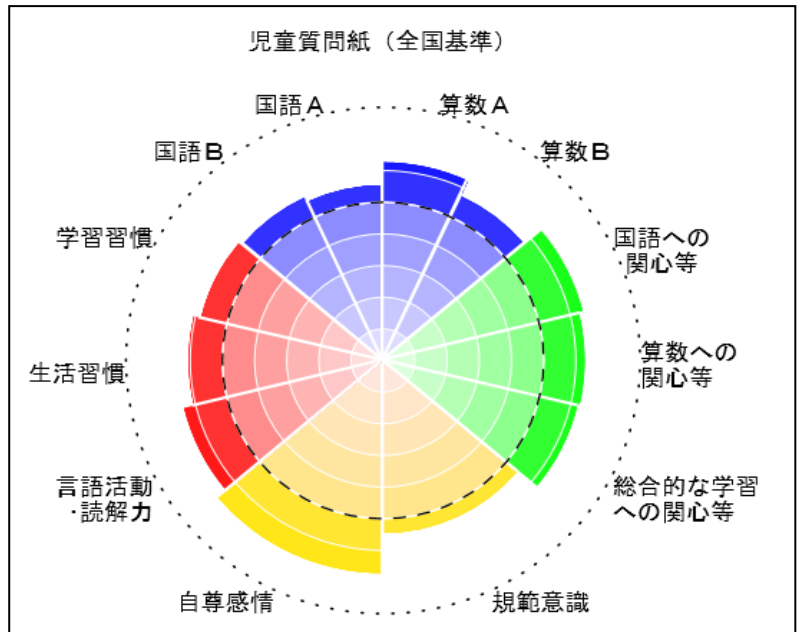
B問題3- (3)  
正答率の低かった問題のひとつです。

（2枚目に続きます）

## 「質問紙調査」から見えてくること…

全国学力・学習状況調査では、国語、算数の学習調査のほかに、学習意欲や方法、環境、生活の諸側面についてアンケート形式で答える、「質問紙調査」が実施されています。このうち、本校の子どもたちに見られる特徴のないいくつかの側面について取り上げ、全国平均と比較しながらお知らせします。

右のグラフの見方ですが、色のついている部分が、本校児童の質問紙の結果です。色よりもやや内側にある、円を描いている白黒の線が全国平均値です。学力(青い部分)で見ると、色が全国平均値を越えて広がっていることから、これまで解説してきたとおり、全国平均を上回る結果となったことがわかります。また、緑部



分で示されている学習への関心の度合いも、全国平均と比較して高い値を示していると言えます。

黄色で示されているのが自尊感情、規範意識についての値です。全国平均を上回ってはいますが、規範意識が、極端に低い値になっています。

質問4「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」

質問6「自分には、よいところがあると思いますか」

質問27「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか」

質問39「学校のきまりを守っていますか」

質問40「友達との約束を守っていますか」

質問4と6は自己肯定感について、39、40は規範意識についての質問です。質問4は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせると、100%の値でした。全国平均と比べて大変高い値で、子どもたちの生活に対する満足度を見ることができます。質問6についても、「当てはまる」と答えた子の割合が全国平均の倍近い値となっています。

一方、規範意識に関して、質問39では「当てはまる」は全国を上回る値、「どちらかといえば当てはまる」まで合わせても、全国平均に近い値でしたが、質問40では「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値が全国平均を下回りました。しかし、質問27では、「当てはまる」が全国平均を上回る高い数値であることから、「自分に厳しく」振り返ることができるのではないかと考えられます。

質問26「学校に行くのは楽しいと思いますか」

質問26も質問27同様、全国平均を上回っており、本校の子どもたちの多くが、楽しく充実した学校生活を送っている様子を見取ることができます。

質問11「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか」

質問12「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(携帯を含む)をしますか」

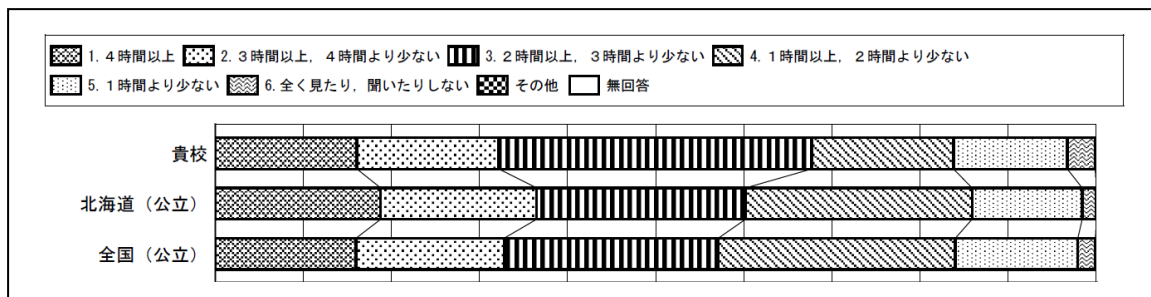
質問38「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」

勉強以外での、家での時間の使い方についての質問です。一部の質問についてはグラフも掲載し、詳しく見ていきたいと思えます。

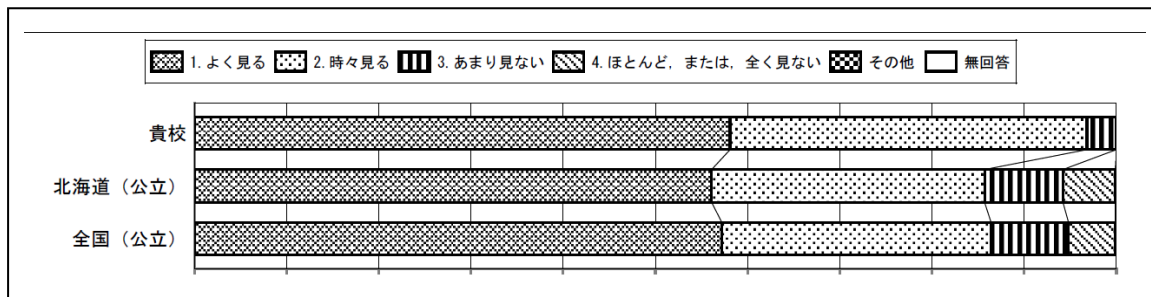
裏に続きます

質問 11 では「2時間以上」と答えた率が全国平均を上回って（これは、昨年度も見られた傾向です）、います。ただし「3時間以上」と答えた率は全国平均並みとなっており、以前と比較すると、ややテレビやビデオ、DVDを見る時間が減ってきているといえます。しかし依然として、全国平均に比べて多いという実態が窺えます。質問 12 では、「1時間以上」と答えている率が全国平均を上回りましたが、「2時間以上」の値は、全国平均を下回りました。

#### 質問 11 の結果



#### 質問 38 の結果



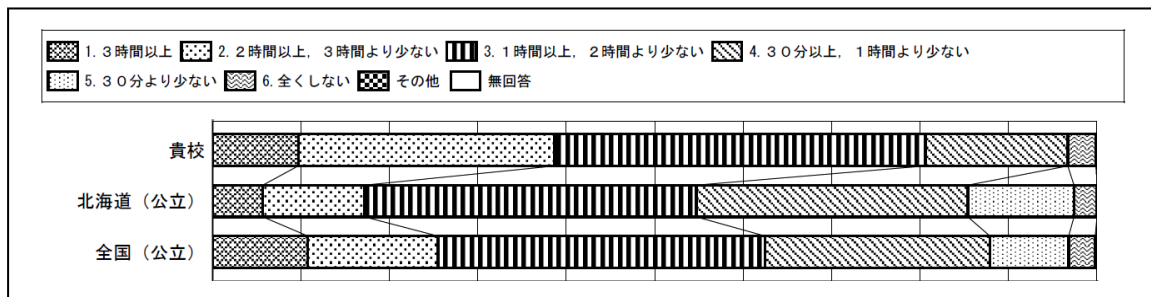
一方、質問 38 では、「よく見る」「ときどき見る」と答えた率が全国平均を上回っており、テレビやインターネットをよく利用するものの、情報ツールとしても活用している子が多いことが明らかになりました。

質問 14 「普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

質問 15 「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

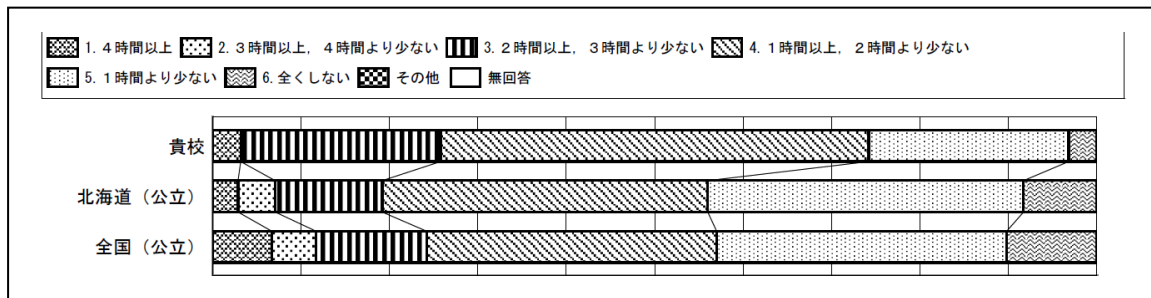
家庭での学習時間についての質問です。

#### 質問 14 の結果



本校での家庭学習は「学年×10分+10分」としており、6年生の場合は「70分以上の家庭学習」を呼びかけていますが、「1時間以上勉強する」と答えている率は、グラフの通り全国平均を上回る結果となっています。学力状況調査の正答率の高さの理由は、ここにもあるのかもしれません。

#### 質問 15 の結果



学校が休みの日も、事情がある場合を除いて家庭学習を行うことが、学習習慣を身につける上で大切です。質問 15 では、「1時間以上勉強する」と答えている率が全国平均を上回る、望ましい結果となっています。この調子で学習習慣を保ち続けていくことは、中学校生活でも必ず意味をもつものになるはずで

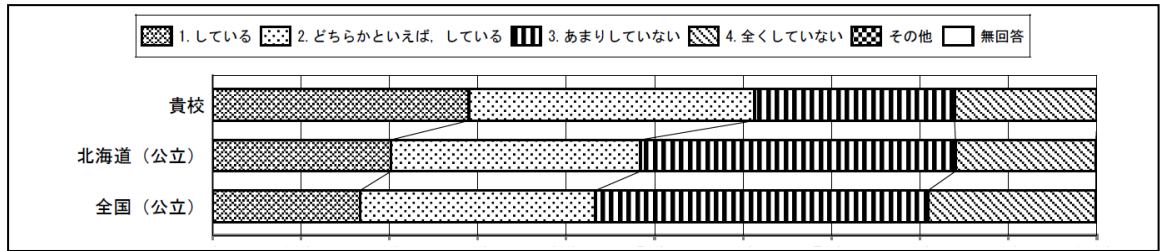
(3枚目に続きます)

質問23「家で、学校の授業の予習をしていますか」

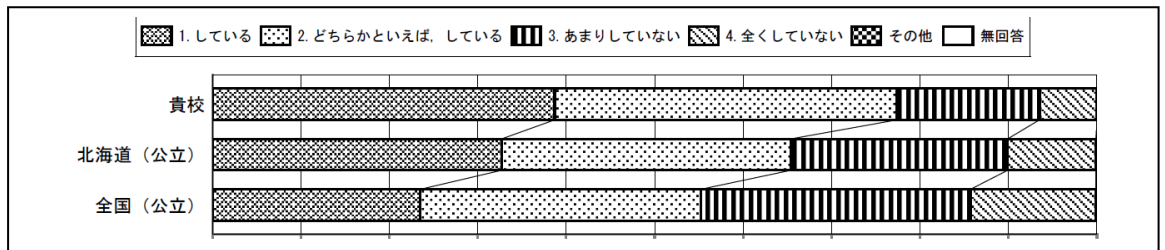
質問24「家で、学校の授業の復習をしていますか」

家庭での予習や復習、その方法についての質問です。

質問23の結果



質問24の結果



質問23, 24は、家で予習や復習を行っているかを問うものです。「している」「どちらかといえば、している」のいずれも、全国平均を上回る高い値を示しています。先に示した質問14でも、家庭での勉強時間が全国平均よりも長いという傾向が窺えることから、学校での学習の確認を、家庭学習の中で行っている様子が見て取れます。復習は、その日の学習内容を確実に身につけるための、重要な学習方法のひとつです。自分自身が今必要としている学習内容を見定め、自分自身で学習の内容を決めて取り組むことができれば、それは必ず大きな力につながっていきます。そのような力が育てている子どもたちの姿が多くみられる値となっており、すばらしい結果であるといえます。このような習慣を今後も引き続き大切にしていけるよう、今後も学校で指導を進めていきます。ご家庭でのお声掛けも、ぜひ、よろしくお願いいたします。

以上、質問紙調査について、いくつかの結果をお示ししましたが、全国平均と比べたとき、帯小の子どもたちの実態はどのようなものなのだろう、という疑問への答えにつながるヒントを少しでもお示しできていれば、嬉しく思います。

本校では、子どもたちの成長を願い、今後も職員が一丸となって指導を進めていきます。しかし、子どもたちが健やかに育っていくためには、ご家庭の皆様の協力も欠かせません。今後とも本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。